

泉室町二條上^ル丁、人見佐渡、五條橋之西、松村因幡、其外所々にあり、^略下

〔京羽津根^三〕諸職諸商買之部

鏡師 寺町夷川上 青造酒之助 六角堂前 鍵屋儀兵衛

〔^{明和}京羽二重大全^三〕諸職名匠

鏡師 松ノ下一條下^ル町 御用 青盛重 五條通狹屋町東へ入町 加賀田河内 六角堂

柳馬場東^江入町 人見和泉掾 蛸薬師烏丸西^江入町 河上山城掾 四條通御旅町 稻

村文右衛門 油小路九太町角 富多照輝 二條高倉東^江入町 植村長吉

〔江戸總鹿子^六〕諸職名匠諸商人

鏡師 神田乗物町 中嶋伊勢守 尾張町一丁目 中嶋伊勢守 南鍋町 山本加賀守

尾張町一丁目横 山隆近江守

磨鏡

〔人倫訓蒙圖彙^六〕鏡磨には、すゝかねのしやりといふに、水銀を合せて、砥の粉をまじへ、梅酢にてとぐなり、

〔歴世女装考^一〕むかしの鏡磨

のちみよ草 寫本全五卷、正徳二年壬辰の霜月筆を 二卷母のはなしに、我がをさなかりし寛永の

頃は、かゞみはざくろの汁にてとぎしに、その、ちは梅の酢にて年中みがく、これも世のかしこ

くなりし一ツなりといはれしとあり、つらくおもふに、昌平の國澤につれて、女も假粧をたし

なみ、鏡も世に多くなりしゆゑ、鏡磨も心つきて、ざくろを梅酢になしたるなるべし、

〔夫木和歌抄^{二十八}〕鏡草

かたばみのそばにおひたるかゞみ草露さへ月に影みがきつ、

〔鶴岡放生會職人歌合〕かゞみとぎ

民部卿爲家